

**【表紙】**

**【提出書類】** 四半期報告書

**【根拠条文】** 金融商品取引法第24条の4の7第1項

**【提出先】** 関東財務局長

**【提出日】** 平成26年2月13日

**【四半期会計期間】** 第67期第3四半期(自平成25年10月1日至平成25年12月31日)

**【会社名】** ソーダニッカ株式会社

**【英訳名】** SODA NIKKA CO.,LTD.

**【代表者の役職氏名】** 代表取締役社長 長洲 崇彦

**【本店の所在の場所】** 東京都中央区日本橋三丁目6番2号

**【電話番号】** 東京3245局1803番(代表)

**【事務連絡者氏名】** 執行役員経理部門長 安江 正人

**【最寄りの連絡場所】** 東京都中央区日本橋三丁目6番2号

**【電話番号】** 東京3245局1803番(代表)

**【事務連絡者氏名】** 執行役員経理部門長 安江 正人

**【縦覧に供する場所】** ソーダニッカ株式会社大阪支社  
(大阪府大阪市北区中之島三丁目3番3号)

ソーダニッカ株式会社名古屋支店  
(愛知県名古屋市西区牛島町6番1号)

株式会社東京証券取引所  
(東京都中央区日本橋兜町2番1号)

## 第一部 【企業情報】

### 第1 【企業の概況】

#### 1 【主要な経営指標等の推移】

##### 連結経営指標等

回次		第66期 第3四半期 連結累計期間	第67期 第3四半期 連結累計期間	第66期
会計期間		自 平成24年 4月1日 至 平成24年 12月31日	自 平成25年 4月1日 至 平成25年 12月31日	自 平成24年 4月1日 至 平成25年 3月31日
売上高	(百万円)	70,426	74,742	93,502
経常利益	(百万円)	1,104	1,155	1,337
四半期(当期)純利益	(百万円)	520	703	763
四半期包括利益又は包括利益	(百万円)	419	1,705	1,157
純資産額	(百万円)	16,181	18,297	16,918
総資産額	(百万円)	53,039	55,139	51,567
1株当たり四半期 (当期)純利益金額	(円)	20.84	28.18	30.59
潜在株式調整後 1株当たり四半期 (当期)純利益金額	(円)			
自己資本比率	(%)	30.5	33.2	32.8

回次		第66期 第3四半期 連結会計期間	第67期 第3四半期 連結会計期間
会計期間		自 平成24年 10月1日 至 平成24年 12月31日	自 平成25年 10月1日 至 平成25年 12月31日
1株当たり四半期純利益金額	(円)	10.74	11.07

(注) 1 売上高には、消費税等は含まれておりません。

2 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

#### 2 【事業の内容】

当第3四半期連結累計期間において、当社グループ(当社及び当社の関係会社)が営んでいる事業の内容に重要な変更はありません。

また、主要な関係会社についても異動はありません。

## 第2 【事業の状況】

### 1 【事業等のリスク】

当第3四半期連結累計期間において、当四半期報告書に記載した事業の状況、経理の状況等に関する事項のうち、投資者の判断に重要な影響を及ぼす可能性のある事項の発生又は前事業年度の有価証券報告書に記載した「事業等のリスク」についての重要な変更はありません。

### 2 【経営上の重要な契約等】

当第3四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等はありません。

### 3 【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

#### (1)業績の状況

当第3四半期連結累計期間におけるわが国経済は、政府主導による経済・金融政策への期待感やアベノミクスのプラス効果が实体经济に徐々に波及し、着実に景況感の改善が見られ、企業収益や個人消費も緩やかながら回復しつつあります。

当社グループに関係の深い化学工業界におきましては、円安基調に伴う輸出環境の改善は見られたものの、原燃料価格上昇の影響を受け、稼動が上がらず伸び悩みました。

このような状況のもと、当社グループにおきましては、引き続き化学品と機能材の二事業を基軸とする経営を推進するとともに、東アジア地域を中心とした海外取引の拡大と再生可能エネルギー関連資材の販売等、環境関連ビジネスの強化に努めてまいりました。

この結果、当第3四半期連結累計期間の業績は、売上高74,742百万円（前年同四半期比6.1%増）、営業利益1,027百万円（同4.3%増）、経常利益1,155百万円（同4.6%増）、四半期純利益703百万円（同35.2%増）となりました。

セグメント別の概況は次のとおりであります。

#### 化学品事業

無機薬品につきましては、主力商品のか性ソーダ及び硫酸は減収となりましたが、脱硫用途の水酸化マグネシウム及び製紙向けのクロレートは増収となりました。官公庁向けの活性炭は増収となりましたが、水処理薬剤のポリ塩化アルミニウムは減収となりました。また、電池材料のマンガン化合物及びメッキ向けシアン化合物は増収となりました。

有機薬品につきましては、製紙用ラテックス、エチレングリコール及び機能性溶剤は増収となりましたが、建築用シリコン及び製紙向けの加工でんぷん類は減収となりました。

この結果、化学品事業といたしましては、売上高は前年同四半期に比べ0.3%減の50,680百万円、セグメント利益（営業利益）は前年同四半期に比べ3.2%増の1,770百万円となりました。

## 機能材事業

合成樹脂につきましては、ポリプロピレン樹脂は増収となりましたが、工業用製品はメーカー撤退が要因となり減収となりました。

また、フィルム類につきましては、ポリプロピレン、ポリエチレン及びナイロンフィルムが増収となりました。

機器類につきましては、太陽光パネル等の電気関連機器は大幅に増収となりましたが、包装関連機器及び回転機器は減収となりました。

その他の資材につきましては、住宅向け地盤改良用のグラウト材料及び飛灰用のキレート剤は復興需要もあり増収となりました。また、北陸新幹線向け成形品は工事の終了もあり減収となりました。

この結果、機能材事業といたしましては、売上高は前年同四半期に比べ21.9%増の23,013百万円、セグメント利益（営業利益）は前年同四半期に比べ57.2%増の540百万円となりました。

## その他事業

その他事業につきましては、連結子会社の曹達日化商貿(上海)有限公司の増収により、売上高は前年同四半期に比べ42.1%増の1,048百万円、セグメント利益（営業利益）は前年同四半期に比べ54.7%増の14百万円となりました。

## (2)財政状態の分析

当第3四半期連結会計期間末における総資産は、前連結会計年度末に比べ3,571百万円増加し、55,139百万円となりました。

増減の主なものは資産の部では、受取手形及び売掛金が2,115百万円、投資有価証券が1,473百万円それぞれ増加いたしました。負債の部では、支払手形及び買掛金が2,772百万円、繰延税金負債が566百万円それぞれ増加し、短期借入金が980百万円減少いたしました。純資産の部では、利益剰余金が378百万円、その他有価証券評価差額金が962百万円それぞれ増加しております。

## (3)事業上及び財務上の対処すべき課題

当第3四半期連結累計期間において、当連結会社の事業上及び財務上の対処すべき課題に重要な変更及び新たに生じた課題はありません。

## (4)研究開発活動

該当事項はありません。

### 第3 【提出会社の状況】

#### 1 【株式等の状況】

##### (1) 【株式の総数等】

###### 【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	100,000,000
計	100,000,000

###### 【発行済株式】

種類	第3四半期会計期間 末現在発行数(株) (平成25年12月31日)	提出日現在 発行数(株) (平成26年2月13日)	上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	25,168,000	同左	東京証券取引所 市場第一部	単元株式数は 1,000株であります。
計	25,168,000	同左		

##### (2) 【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

##### (3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

##### (4) 【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

##### (5) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (千株)	発行済株式 総数残高 (千株)	資本金増減額 (百万円)	資本金残高 (百万円)	資本準備金 増減額 (百万円)	資本準備金 残高 (百万円)
平成25年10月1日～ 平成25年12月31日		25,168		3,762		3,116

(6) 【大株主の状況】

当四半期会計期間は第3四半期会計期間であるため、記載事項はありません。

(7) 【議決権の状況】

当第3四半期会計期間末日現在の「議決権の状況」については、株主名簿の記載内容が確認できないため、記載することができないことから、直前の基準日（平成25年9月30日）に基づく株主名簿による記載をしております。

【発行済株式】

平成25年9月30日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式			
議決権制限株式(自己株式等)			
議決権制限株式(その他)			
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 217,000		
完全議決権株式(その他)	普通株式 24,784,000	24,784	
単元未満株式	普通株式 167,000		
発行済株式総数	25,168,000		
総株主の議決権		24,784	

(注) 1 「完全議決権株式(その他)」欄の普通株式には、証券保管振替機構名義の株式1,000株(議決権1個)が含まれております。

2 「単元未満株式」欄の普通株式には、当社所有の自己株式189株が含まれております。

【自己株式等】

平成25年9月30日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
(自己保有株式) ソーダニッカ株式会社	東京都中央区日本橋 三丁目6番2号	217,000		217,000	0.86
計		217,000		217,000	0.86

2 【役員の状況】

該当事項はありません。

## 第4 【経理の状況】

### 1．四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」(平成19年内閣府令第64号)に基づいて作成しております。

### 2．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第3四半期連結会計期間(平成25年10月1日から平成25年12月31日まで)及び第3四半期連結累計期間(平成25年4月1日から平成25年12月31日まで)に係る四半期連結財務諸表について、有限責任 あずさ監査法人による四半期レビューを受けております。

1【四半期連結財務諸表】  
 (1)【四半期連結貸借対照表】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成25年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成25年12月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	4,423	5,224
受取手形及び売掛金	33,738	35,853
商品及び製品	4,426	3,504
その他	313	500
貸倒引当金	73	77
流動資産合計	42,828	45,006
固定資産		
有形固定資産	1,484	1,519
無形固定資産	218	194
投資その他の資産		
投資有価証券	6,262	7,735
その他	963	743
貸倒引当金	190	60
投資その他の資産合計	7,036	8,419
固定資産合計	8,739	10,132
資産合計	51,567	55,139



(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成25年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成25年12月31日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	25,874	28,647
短期借入金	6,000	5,020
未払法人税等	268	213
引当金	263	149
その他	698	683
流動負債合計	33,104	34,713
固定負債		
繰延税金負債	204	770
退職給付引当金	534	554
その他	806	804
固定負債合計	1,544	2,129
負債合計	34,649	36,842
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	3,762	3,762
資本剰余金	3,130	3,130
利益剰余金	8,957	9,335
自己株式	58	60
株主資本合計	15,791	16,168
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	993	1,956
繰延ヘッジ損益	13	10
土地再評価差額金	116	116
為替換算調整勘定	3	45
その他の包括利益累計額合計	1,126	2,129
純資産合計	16,918	18,297
負債純資産合計	51,567	55,139

## (2)【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

## 【四半期連結損益計算書】

## 【第3四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年12月31日)
売上高	70,426	74,742
売上原価	65,758	69,907
売上総利益	4,668	4,834
販売費及び一般管理費		
運賃諸掛	972	952
給料及び手当	1,143	1,180
賞与引当金繰入額	115	117
役員賞与引当金繰入額	28	31
退職給付費用	43	52
その他	1,379	1,471
販売費及び一般管理費合計	3,682	3,806
営業利益	985	1,027
営業外収益		
受取利息	3	5
受取配当金	136	138
その他	56	43
営業外収益合計	196	187
営業外費用		
支払利息	59	42
売上割引	7	6
その他	9	11
営業外費用合計	77	60
経常利益	1,104	1,155
特別利益		
投資有価証券売却益	-	16
移転補償金	16	-
特別利益合計	16	16
特別損失		
投資有価証券評価損	168	-
事務所移転費用	6	-
特別損失合計	175	-
税金等調整前四半期純利益	945	1,172
法人税、住民税及び事業税	366	480
法人税等調整額	58	11
法人税等合計	425	468
少数株主損益調整前四半期純利益	520	703
少数株主利益	-	-
四半期純利益	520	703

【四半期連結包括利益計算書】  
 【第3四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年12月31日)
少数株主損益調整前四半期純利益	520	703
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	96	962
繰延ヘッジ損益	15	2
為替換算調整勘定	20	42
持分法適用会社に対する持分相当額	0	0
その他の包括利益合計	100	1,002
四半期包括利益	419	1,705
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	419	1,705
少数株主に係る四半期包括利益	-	-

【注記事項】

(四半期連結貸借対照表関係)

四半期連結会計期間末日満期手形

四半期連結会計期間末日満期手形の会計処理については、手形交換日をもって決済処理しておりません。

なお、当第3四半期連結会計期間末日が金融機関の休日であったため、次の四半期連結会計期間末日満期手形が、四半期連結会計期間末日残高に含まれております。

	前連結会計年度 (平成25年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成25年12月31日)
受取手形	1,099百万円	860百万円
支払手形	150百万円	101百万円

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

当第3四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。

なお、第3四半期連結累計期間に係る減価償却費(無形固定資産に係る償却費を含む。)は、次のとおりであります。

	前第3四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年12月31日)
減価償却費	111百万円	124百万円

(株主資本等関係)

前第3四半期連結累計期間(自平成24年4月1日至平成24年12月31日)

1 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成24年5月11日 取締役会	普通株式	174	7.00	平成24年3月31日	平成24年6月25日	利益剰余金
平成24年11月2日 取締役会	普通株式	162	6.50	平成24年9月30日	平成24年12月3日	利益剰余金

2 基準日が当第3四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第3四半期連結会計期間の末日後となるもの

該当事項はありません。

当第3四半期連結累計期間(自平成25年4月1日至平成25年12月31日)

1 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成25年5月9日 取締役会	普通株式	162	6.50	平成25年3月31日	平成25年6月26日	利益剰余金
平成25年11月6日 取締役会	普通株式	162	6.50	平成25年9月30日	平成25年12月2日	利益剰余金

2 基準日が当第3四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第3四半期連結会計期間の末日後となるもの

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第3四半期連結累計期間(自平成24年4月1日至平成24年12月31日)

1 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	報告セグメント				調整額 (注)1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)2
	化学品事業	機能材事業	その他事業	計		
売上高						
外部顧客への売上高	50,808	18,879	737	70,426		70,426
セグメント間の内部売上高 又は振替高			309	309	309	
計	50,808	18,879	1,047	70,735	309	70,426
セグメント利益	1,715	343	9	2,068	1,082	985

- (注)1. セグメント利益の調整額 1,082百万円は、各報告セグメントに配分していない全社費用であります。  
 全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。
2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

当第3四半期連結累計期間(自平成25年4月1日至平成25年12月31日)

1 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	報告セグメント				調整額 (注)1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)2
	化学品事業	機能材事業	その他事業	計		
売上高						
外部顧客への売上高	50,680	23,013	1,048	74,742		74,742
セグメント間の内部売上高 又は振替高			531	531	531	
計	50,680	23,013	1,579	75,273	531	74,742
セグメント利益	1,770	540	14	2,325	1,297	1,027

- (注)1. セグメント利益の調整額 1,297百万円は、各報告セグメントに配分していない全社費用であります。  
 全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。
2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

項目	前第3四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年12月31日)
1株当たり四半期純利益金額	20.84円	28.18円
(算定上の基礎)		
四半期純利益金額(百万円)	520	703
普通株主に帰属しない金額(百万円)		
普通株式に係る四半期純利益金額(百万円)	520	703
普通株式の期中平均株式数(千株)	24,960	24,952

(注) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

2【その他】

第67期(平成25年4月1日から平成26年3月31日まで)中間配当について、平成25年11月6日開催の取締役会において、平成25年9月30日の株主名簿に記録された株主に対し、次のとおり中間配当を行うことを決議いたしました。

- |                       |            |
|-----------------------|------------|
| (1)配当金の総額             | 162百万円     |
| (2)1株当たりの金額           | 6円50銭      |
| (3)支払請求権の効力発生日及び支払開始日 | 平成25年12月2日 |

## 第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。



## 独立監査人の四半期レビュー報告書

平成26年 2月12日

ソーダニッカ株式会社

取締役会 御中

有限責任 あずさ監査法人

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 平 井 清

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 木 下 洋

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられているソーダニッカ株式会社の平成25年4月1日から平成26年3月31日までの連結会計年度の第3四半期連結会計期間(平成25年10月1日から平成25年12月31日まで)及び第3四半期連結累計期間(平成25年4月1日から平成25年12月31日まで)に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書及び注記について四半期レビューを行った。

### 四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

### 監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

### 監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、ソーダニッカ株式会社及び連結子会社の平成25年12月31日現在の財政状態及び同日をもって終了する第3四半期連結累計期間の経営成績を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

### 利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

(注) 1. 上記は、四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(四半期報告書提出会社)が別途保管しております。

2. 四半期連結財務諸表の範囲にはXBRLデータ自体は含まれていません。